

2025 Gift

ANNUAL REPORT

認定NPO法人Gift

2025年5月期 アニュアルレポート

2025年9月発行

* 認定NPO法人
Gift -ギフト-

INTRODUCTION

はじめに

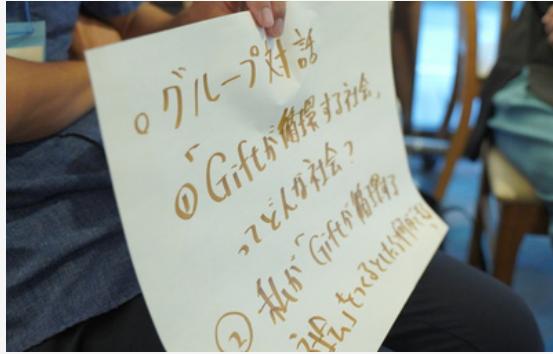
- いつもGiftの活動をあたたかく見守っていただき、本当にありがとうございます。
- 皆さまのご支援に支えられ、第8期を無事に終えることができ、新たな気持ちで第9期をスタートいたしました。
- 第8期は、新しい挑戦や模索の多い一年でした。特に前半は、安定的な収入が少なく、活動の広がりに対して資金面での調整が求められる場面もありました。ですが、「今後のGiftのために必要なことは何か?」を見つめ直す機会にもなり、大きく前進するための土台をつくる一年でもありました。年明け以降は、運営の持続性を高めるために固定費の見直しを行い、これまで無償または低価格で行っていたサポート業務についても新たな体制を整えました。ありがたいことに、NPOの皆さまのご理解とご協力をいただき、最終的には黒字で締めくくることができました。

第9期は、私自身もGiftへの関わりをさらに深めながら、多くの仲間と力を合わせて、より多くのNPOをサポートしていけるよう取り組んでいきます。

本報告書では、1年間の活動の振り返りやインタビュー記事なども掲載しています。

ぜひ最後までご覧いただけましたら嬉しいです。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。



ACTIVITY REPORT FOR NPO

NPO向け支援事業 事業報告

第8期は、NPO向け支援事業に特化することにして、事業を行いました。会計や法務などのバックオフィス業務が整うことで、資金繰りが改善し、団体の代表や幹部スタッフが事業に専念できるようになり、その結果、事業も成果が表れていることを感じることができました。表には見えないため、Giftの活動が見えないという声もありましたが、裏方としての成果は出せた一年だったと感じています。



● NPO向け会計サポート

- 会計のサポート、資金調達以外にも、NPO法人設立、認定NPO法人化、法人解散、内規の作成等、NPOの様々なバックオフィスのサポートを行いました。
- ・相談対応回数 132回、サポートした団体数 28団体

● NPO向け講座

事務局職員に必要な、会計や実務に関する情報をオンライン講座として開催。
参加者からは、「とてもわかりやすかった。」「早速実践してみます！」と好評価をいただいています。

- ・述べ参加者: 9名
- ・開催数: 全4回
 - 令和6年07月07日(日) | 「やってみよう！電子申請・電子納付」
 - 令和6年10月14日(月) | 「攻める」資金調達セミナーVol.1
 - 令和6年10月26日(土) | 「攻める」資金調達セミナーVol.2
 - 令和7年02月01日(土) | 確定申告やろう会

オンライン無料相談会

会計や経営など、NPOの組織運営等に関する個別相談会を毎月開催しました。

- ・実施回数: 12回(1回: 1枠30分×4枠)、述べ参加者: 23名

外部より講師・ゲスト依頼

- ・依頼数: 全3回
 - 令和6年11月29日(金) | 宝塚NPOセンター 「資金調達のキソ」
 - 令和6年12月10日(火) | 豊中市民活動情報センター 「会計一緒にやろう会」
 - 令和7年03月22日(土) | 豊中市民活動情報センター 「会計一緒にやろう会」

他団体とのコラボ企画

NPO法人ゆるんと共同で「なりたいやりたい応援基金」を実施(令和6年10月～令和7年9月)
新しく何かを始めたい人に向けて、講座や、相談会を実施しました。

ACTIVITY REPORT FOR PEOPLE

一般向け・啓発活動事業 事業報告

第8期の一般向けの事業については、かなり規模を縮小し、開催が少なくなってしまいました。そのため、参加していただける機会が少なくなってしまったことで、センターの皆様などにお会いできる機会が減ってしまったことはとても残念でした。ただ、今後事業が軌道にのって安定してきましたら一般向けの企画も増やしていきたいと考えています。
企画はWebページに掲載していますので是非ご覧ください。



- 学校では教えてくれないお金の話(オンライン開催)
義務教育ではあまり触れられてこなかった個人のお金周りの話や税金の話など、個人はもちろん自身の周囲の幸せのために正しい知識を身に着けてもらい、より良い社会生活を送ってもらうため基本的なお金の考え方・知識について身につけてもらうための情報提供のための講座を開催しました。
- 講 師:ソニー生命保険株式会社 古川龍生
・述べ参加者:5名
・開 催 数:全1回
令和6年01月18日(土) | 個人事業主のお金の流れ

Giftラジオ

Giftに関わる団体の代表等をゲストに交えて話をするラジオ番組の配信を行いました。

- ・配信回数:全4回 オンライン配信
令和6年06月12日(水) | 7期を振り返ろう!(市民向け企画編)
令和6年06月26日(水) | 7期を振り返ろう!(NPO向け事業編)
令和6年12月16日(月) | 寄付月間特別編 ゲスト:動物解放団体リブ 代表 目黒碧さん
令和7年01月10日(水) | ゲスト:りじょぶ大阪 代表 多田紀子さん

■休眠預金へのチャレンジ

昨年度から、Giftでは「休眠預金助成事業」への応募にチャレンジしております。休眠預金助成事業とは、10年以上取引のない預金を原資として、助成金として社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する事業です。

「Giftは事業収入も寄付収入もあるし、助成金は要らないんじゃないの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、NPO向け支援事業を行う中で、大きく成長する伸びしろのある団体だけど、現時点では収入が少なく、十分な相談料を支払うことができない団体も多くいらっしゃいます。こうした団体をより継続的に支援していく上では、助成金が助けになると考えております。

休眠預金助成事業は、国民の預金を原資としていることから、一般的の助成金と比べて特に高い公益性、効果的に社会課題を解決できる組織基盤、緻密な効果検証の技術が求められます。

そのため、応募に際しては、ニーズ調査を行い、事業計画と効果検証の方法を精査するとともに、リスク管理規程など組織の内部規程を整備しました。

結果的に、昨年度は不採択となりましたが、応募を通じて得られた知見やノウハウをNPO支援に活かし、再挑戦したいと考えております。

ACCOUNTING REPORT

会計報告

【2025年5月度決算と前期比較】

勘定科目	前期	当期	当期割合
NPO向け事業収入	2,180,780	1,860,840	42.0%
こころ収入	318,100	496,425	11.2%
市民向け事業収入	103,500	0	0.0%
寄付金収入	2,097,195	2,053,274	46.4%
会費収入	14,000	15,000	0.3%
受取利息	1	37	0.0%
雑収入	0	64	0.0%
収入合計	4,713,576	4,425,640	100.0%
事業費			
人件費	2,129,428	1,090,703	24.6%
こころ経費	419,637	496,425	11.2%
NPO向け事業経費	1,081,651	1,430,309	32.3%
市民向け事業経費	107,778	0	0.0%
事業費計	3,738,494	3,017,437	68.2%
売上総利益	975,081	1,709,942	38.6%
管理費			
役員報酬		300,000	6.8%
福利厚生費	5,282	7,265	0.2%
業務委託料	437795	162,411	3.7%
旅費交通費	47,820	3,060	0.1%
通信費	50,103	9,093	0.2%
備品・消耗品費	105,013	71,766	1.6%
租税公課	0	2,060	0.0%
支払手数料	108,287	64,927	1.5%
支払報酬	132,000	132,000	3.0%
会議費	0	4,200	0.1%
地代家賃	0	80000	1.8%
報告費	140070	83,635	1.9%
諸会費	18,825	13,950	0.3%
研修費	9900	16,500	0.4%
管理費合計	1,055,095	950,867	21.5%
税引前当期純利益	-80,013	457,336	10.3%
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	1.6%
当期純利益	-150,013	387,336	8.8%

事業収益は、前期と比較すると全体的に減少しています。理由は、前期は団体の規約の作成などの臨時の仕事を受けたのですが、当期の前半は低額や無料での業務が多く、収入が大きく減りました。後半、事業単価の見直しや、定期契約を増やす努力を行なうことにより、かなり改善してきました。

「こころ」については、他団体に事業を委託していますが、人件費などの必要経費をGiftで支出し、同額を委託収入として計上しています。事務局スタッフの減少により、人件費についても大幅に減少しました。

役員報酬は、事業費の人件費と管理費に按分しています。当期より、本店移転したことにより家賃が発生しています。それ以外の経費については、固定費を含めてコストカットを試みた結果、20%近く減らすことができました。

最終的には、事業単価の見直しと、経費の削減を行うことで、当期は最終利益を出すことができました。NPOにおいても、経営において、痛みを伴う選択をすることの大切さを、身をもって体験することができた一年でした。

ACTIVITY PLAN: NEXT YEAR

次年度の事業計画

【2026年度の事業計画】

- 新年度も引き続き、経費削減には努めつつ、収益の増加を目指していきたいと考えています。
- NPO向けの支援については、サポーターの皆様からの寄付により、立ち上げ当初の団体などに対しても支援ができる体制を維持することができます。

また、会計業務に関しては、業務委託を活用して、サポートの量を増やせるよう対策を行っていきます。

予算は、あえて希望的な予算ではなく、現実的な予算を意識して作成したため成長が見えにくいものになっていますが、今年度も休眠預金の申請などにも再チャレンジしたいと考えています。

今期も「Giftの支援があったから、活動が広がった！」と言っていただけるよう、そしてGiftも継続して活動が続けられる余裕が持てるよう、引き続き頑張っていきます。

【2026年度予算】

項目	合計
事業収益	2,460,000
寄付収入	1,200,000
	580,000
会費収入	15,000
収益合計	4,255,000
事業費	1,560,000
	465,000
	60,000
	1,080,000
	63,000
	60,000
	66,000
	103,000
	80,000
	15,000
	60,000
管理費	22,000
	96,000
	130,000
経費合計	3,860,000
営業利益	395,000

INTERVIEW

支援団体インタビュー

会計は専門家に任せて、やるべきことに集中を

NPO法人りじょぶ大阪：代表理事 多田 紀子さん

1992年、大阪大学人間科学部卒業。結婚後、子育てをしながら2003年に言語聴覚士の資格を取得。発達障害がある息子を、言語聴覚士としての知識をもとに生活の中で工夫を重ねながら育てる。老人保健施設、療養病院、一般病院、回復期病院、脳神経外科病院に勤務した後、生活期のコミュニケーション障害者を支援するため、2018年にNPO法人Reジョブ大阪を設立。高次脳機能障害者、失語症者の社会復帰支援、家族のケア、啓発を理念に、当事者会、講演やイベントなどSNSを使って広く活動を行う。

「現状をなんとかしたい」という想いで、目の前の支援活動に必死に取り組むNPO。活動の裏側では、様々な会計業務が発生しています。

「会計も、専門家に頼んだ方が早く間違いない。」

そう話すのは〈高次脳機能障害〉や〈失語症〉、〈構音障害〉などの患者さんの社会復帰と患者家族を支えるNPO法人りじょぶ大阪の代表を務める多田紀子(ただのりこ)さん。継続的にGiftの会計支援を受けている多田さんに、日々の相談内容など、「会計」にまつわるお話を伺いました。



りじょぶ大阪代表の多田紀子さん

相談しているのは「どうすれば法人にお金が残るのか」

—多くのNPOが設立当初は代表一人で会計を担うことが多い中で、りじょぶさんは、設立当初から税理士に会計業務を依頼をしていたと伺いました。初めから会計が重要だと考えていたのでしょうか？

会計が重要だと考えていたというよりも、そもそも税理士に頼まないといけないものだと思っていたんですよ。私の頭の中に頼まないという選択肢がなかっただけで。

—今では会計をGiftに任せてくださっていますが、それはどうしてですか？

最初はGiftの個別相談で、「セミナーの参加費」の勘定科目はどうしたらいいんだろう？といったことを相談させてもらっていたんです。同じタイミングで日々の出納を付けていた前の理事がりじょぶを辞められたので、会計を全てGiftにお願いしました。

*個別相談とは？

Giftが行うNPOサポート事業の一つ。個別に継続的な伴走支援をしながら、資金繰りの相談や助成金申請のサポートなど、柔軟に提供しています。

—りじょぶさんは、2ヶ月に1回の頻度で、継続的に個別相談を利用してくださっていますが、どんなことを相談していますか？

「どうすれば法人にお金が残るのか」を相談させてもらっています。相談だけではなく、業務を依頼する時もありますね。助成金を申請する際に、収支報告まで手が回らなかつたので、お願いしたことがあります。

私の中ではいつも相談することが決まっているので、「こんなことをやりたいんだ」という話をすると、Giftが別のアイデアを出してくださることもあれば、そのまま受けてくださることもあります。



当事者交流会「まるっと会」の様子

会計のことは「会計の専門家」に聞いた方が早いし、間違いない

—多田さんにとってGiftはどんな存在になっていますか？

もうGiftがいないと事業が回らないなと思っています。福祉関係の事業をやっていると、本当にお金はギリギリじゃないですか。その中でGiftは私たち法人にちゃんとお金が回るように考えてくださるので、絶大な信頼をしています。

お金が欲しいとかは全然なくて、ガツガツしているわけではないんですけど、Reジョブとして、やりたいことに必要なお金は絶対に回したいって私は思っているんです。お金は手段に過ぎませんが、とても大事なので。

だからもともと少ないお金をどう回すかはずっと考えていますし、必要なお金をどこから引っ張ってこようかとすごく考えます。やりたいことが大きくなるとお金も大きくなっていくので、その中でGiftに色々なことを相談させてもらっています。

—お金に関する相談役、相棒のように感じてくださってるんですね。

私も普段から会計の動画を見たりして勉強しているんですけど、新しく知ったことや、わからないことを聞けばすぐに答えてくださるので、助かりますね。やっぱり専門家に聞いた方が早いし間違いないですよ。

私も言語聴覚士なので、患者さんがネットで色々と調べて、ご自身で「こんなリハビリをしてきました」と話されることもあります。けれど症状がそもそも違うので、必要のないリハビリをしている人もいる。

—専門職の多田さんから見れば、間違ったことをしている。

そうです。会計も同じで、自分で一生懸命調べるのもいいんですけど、肝心なところが間違っていたりもするので、専門家にお願いした方がいいなと思っています。



失語症・高次脳機能障害についてのセミナーを開催

法人の活動や想いを理解した上でサポートしてくれる

—りじょぶさんは、Giftに会計を依頼する前に、他の税理士にも会計のお願いをしていたと伺いましたが、その違いやGiftならではだと思うことはありますか？

それはやっぱり、法人のことをよく理解してくれていることが大きいです。

—法人のことを理解してくれている

今の法人の活動を知っていて、どんな想いで、私がどういったことをやってきたのか。そうした法人の一連の流れを知ってくれています。他の税理士では、期末に渡すだけの関係になってしまいがちで、数字だけをみてもらう状況になってしまいますが、法人として将来どうしていきたいのかも知っているので、「この助成金に申請してみたらどうか？」と、状況に合わせた提案してくれたり、法人の活動や想いを理解してくれることは非常に大きいです。

—最近では会計以外の部分でもGiftに相談してくださっていますね

たくさん相談しています。倫理委員会を立ち上げたい時にもGiftにお世話になりましたし、相談に適した人も紹介してもらったり、助成金申請も一緒にやってもらっています。数字が入るのは全部Giftを通すといいなと思っています。

* Giftでは会計だけでなく、法務や組織運営のサポートも行っています。



発刊しているインタビュー冊子の取材風景

理念を持った団体にこそ、Giftに繋がってほしい

—長期的に個別相談の時間を使ってくださっていますが、これは一番助かった、ということはどんなことでしょうか？

それはたくさんありますよ。細かいこともいつも聞いていますからね。中でも助成金の申請書を書くのを手伝ってもらえたのは本当に助かりました。助成金が採択された後も、領収書を整理したりするのが大変なので、その辺りを任せられるところわかっていると、申請にも踏み出しやすくなるんですよ。

助成金の報告書も私がやろうと思えば出来なくもないんですけど、自分の仕事量を増やした時に減るものを考えたら、代表として本来やるべきことに集中するべきだなって思いますね。

一人やお金、資源が少ない段階では、ついつい自分でなんとかしようとしてしまうことが多いと思うのですが、お話を伺っていると、多田さんは潔く仕事を託していく印象を受けます。

そうしないと事業が回らないんですよ。でも人に任せるのも実は大変だったりするじゃないですか。はじめは説明も必要なので、ついつい自分でやった方が早いなと思うことは私もありますけど、自分がいつまでも持っていてはダメなんだなって思います。

Giftは信頼できるので、どんどん託せるなって思っています。だから私は周りの事業所さんにもGiftのことを紹介するんですけど、なかなか頼むことには抵抗があるみたいですね…

—会計を頼むのは、お財布の中身を見せるようなものなので、そこに抵抗感を感じる方も多いです。
逆にそうした抵抗感は多田さんにはなかったのでしょうか？

ないですよ、私は(笑)。怒られるんじやないかとか、何か言われるとは思わないです。皆さん申告の時に税理士が必要だとはわかっているけれど、会計士の役割がわかつてないんじゃないかな。私は資金調達のためにも、会計士に見てもらうことは大事だと思います。だから理念を持った団体にこそ、Giftに繋がってほしいなと思っています。

—最後に、何か伝えたいことはありますか？

私たちの団体は、皆でわいわい作り上げていく形を大切にしています。事業の主軸にしている当事者インタビュー冊子『脳に何かがあったとき』では、失語症・高次脳機能障害者が、病院を退院した後にどんな人生を歩んで来たのかを取材しています。毎月2名の方に取材をして、発行する。このサイクルを回すのに必死で、なかなか宣伝をする時間がないんですけど、この冊子に関わって下さった当事者の方々が広めて下さっています。

当事者やそのご家族の研究についてのお声がけも増えてきたのですが、それは、「りじょぶには、研究に協力してくださる人たちがたくさんいる、繋がりがある。」と信用していただけるようになってきたからなのかなと思っています。

そうした一つ一つに感謝ですね。

—インタビューにお答えください、ありがとうございました！



インタビュー冊子「脳に何かがあったとき」

NPO法人りじょぶ大阪

NPO法人りじょぶ大阪は、高次脳機能障害や失語症の方が抱える様々な問題について、その人たちが自分らしく生きていけるよう、社会復帰の手助けをSNSやブログなどを通じ、当事者発信で世の中に広める活動をしています。

- ・WEBサイト:<https://rejob-workers.com/>
- ・寄付先:<https://rejob-workers.com/support>

SUPPORTER

サポーター

Giftサポーター

のべ120名

(マンスリー78名 単発42名)

※2025年8月末現在

毎月300円の寄付でも、集まれば社会をより良くしたいと願い活動するNPOを支える大きな力になります。いただいた寄付は、毎月の無料相談会の開催や、立ち上げ当初のNPOのサポートを行う上での補助として使わせていただいている。NPOからいただいた、「Giftのおかげ」という言葉は、サポートーの皆さんへの感謝の言葉でもあります。また、第8期は、バースデードネーションによる寄付キャンペーンを4名の方に立ち上げていただきまとめて嬉しかったです。このような応援があることでさらに私たちも活動に力が入ります！

100名を超える方にサポーターとして支えていただいております
一部ではありますが ご紹介させていただきます(敬称略)

一木 逸人	ANGEL	有限会社 関西マーケティング研究所	キクタス株式会社
工藤冷暖サービス	栗原 裕子	小泉 雄	佐藤 慶宏
セブン・イレブン 練馬関町北3丁目店	ソニー生命保険株式会社 古川 龍生	鶴岡 龍介	Dear Consulting
FANTAS 中尾 隆	松浦 悠記	八木 佑馬	山崎 景一

サポーターの声 /栗原裕子さん

寄付をするのが好きなのでいろんな団体に割と気軽に寄付をしています。Giftへの最初の寄付も、ご一緒した活動でまゆさんがイベントを企画してくださり、そのお礼という気軽な気持ちでした。

例えば、まゆさんがこの寄付に対して「ありがとう」と受け取って終わり、というのも全然ありだと思います。でもこの時は、当時代表の喜田くんが直接お礼を伝えたいということでお会いすることになり、その後もまゆさんが「メルマガを送ってもいいですか?」と聞いてくださったりとやりとりが続きました。

こういったやりとりを通じてGiftを少しづつ知っていくことで、Giftに関わる人を知ることで、継続して応援したいなと思うようになりました。

認定NPO法人Giftへの寄付の詳細はこちら

右のQRを読み込んで、金額をお選びいただくだけでクレジットカードから
簡単にご寄付ができます。毎月300円からの月額サポーターも募集しています。



●銀行振込の場合…

ゆうちょ銀行:四〇八支店 普通預金 4356352 トクヒ)ギフト
※ゆうちょ銀行からの振込は 記号番号 14050 口座番号43563521

●ゆうちょ銀行以外の場合…

三井住友銀行 徳庵支店 普通預金 1852010 エヌピーオーホウジングift

~ THANKS ~

おわりに/理事長 小山真由美



この一年も、Giftの活動を共に支えてくださった皆さんに、心から感謝申し上げます。皆さまのご支援や想いが、日々の歩みを力強く後押しし、多くの出会いや挑戦を可能にしてくれました。

私たちが目指しているのは、「お金が理由で夢をあきらめることがない社会」です。そのために、非営利組織や小さな事業者が財務や組織の基盤を整え、信頼を得て、持続的に活動を続けられるよう伴走してまいりました。もちろん、まだ道半ばです。資金の壁、人材の課題、社会の理解不足など、解決すべきことは山積みです。

けれども、仲間と共に歩みを重ねることで、少しずつ確かな変化が生まれています。数字の裏にある人の想いがつながり、未来を変える力となる瞬間を、私たちは何度も目の当たりにしてきました。

これから的一年も、Giftはさらに挑戦を続けます。社会課題の現場に寄り添いながら、財務や資金調達の枠を超えて、誰もが安心して挑戦できる循環を広げていきます。その挑戦は、私たちだけでは実現できません。皆さま一人ひとりの応援や共感があってこそ、未来への道が拓かれていきます。

どうぞこれからも、共に歩んでいただければ幸いです。
心からの感謝とともに。

監事からのあいさつ/監事 上村有里



豊中市で市民活動センターの運営と学びの場づくりコーディネーターをしています。Giftさんとは、豊中市の登録団体になっていただいた2019年あたりからのお付き合い。

自団体の会計も支えていただきつつ、会計講座のプラッシャアップや専門相談の対応など、お互いに切磋琢磨しながらの今日です。会計は、お金の管理だけでなく、組織の持続的な経営に直結するということを日々心得つつ、今後も社会を豊かにするためのタッグを組んでいけたらと思っています。



監事 上村有里

長野県生まれの東北育ち。親が転勤族で転校ばかりの学生時代でしたが、結婚後に住み始めた豊中が人生で一番長くなりました。趣味は、去年50周年を迎えたモンチッチを集めることとサイクリング。あまり知られていない裏道や眺めのいい場所、自転車で走りやすいコースを見つけるのが好きです。

法人概要

法人名：認定NPO法人Gift
所在地：大阪市福島区玉川
法人設立：2017年8月9日
認定化：2022年11月16日

理事：小山真由美、荒川隆太朗、遠藤龍
監事：上村有里
MAILアドレス：info@giftboxcharity.org
WEBサイト：<https://giftboxcharity.org>

